

泉州看護専門学校

○2021年度「自己点検・自己評価」、「学校関係者評価」

カテゴリー	現状と課題・解決方法	学校関係者評価
<p>教育理念・教育目的・教育目標</p>	<p>理念・目的・育成人材像は本校の絶対的教育方針に繋がるものであり、入学案内・ホームページ、学生便覧に分かりやすい表現で載せている。</p> <p>本校の『めざす看護師像』も学生便覧の中に記しており、その内容は、看護の専門職者として求められる専門知識・技術・技能を身につける前提として、感性豊かで人権思想に裏付けられた科学的な人間観・健康観と集団の中での人材育成や仲間意識を重視している。さらに、設置主体である法人の医療観(綱領)に基づき、対象を生活と労働の場で歴史的に捉えることを核としている。</p> <p>科学的な物の見方・考え方を育て、生命に対する尊厳を深めるために、「哲学」「生物学」「物理学」とさらに「憲法学」を科目立てしている。</p> <p>本校は、これまで全学合宿・学院祭・創作曲発表会といった行事を学生主体で実行委員会形式で行うことにより、自主性・民主性・集団性を高める取り組みとして、教育の柱として取り組んできた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2021年度も全学合宿が中止となった。学院祭は昨年同様、縮小した形で実施することが出来た。実行委員会を中心に係活動を縦割りで行う今年度唯一の取り組みであり、行事をすすめる中で学生の成長が見られ、実施できて良かった。記念講演では在宅療養・在宅看護の実際と魅力を話していただき、全日本民主医療機関連合会(以下、民医連)の医療・看護実践についても学ぶ機会となった。</p> <p>創作曲発表会は縮小した形での実施を考えていたが、オミクロン株の感染拡大により中止せざるを得なかった。1回生にとっては大事な発表の機会であり、他学年に聞いてもらえなかったのは残念だったが、教員の参加で曲を発表出来たことは良かった。</p> <p>実行委員または各係といった役割をもって、一つの行事を作り上げる為には、係会議や実行委員会といった3学年での討議や準備をすすめる中で、自分の意見を相手に伝えること、また、相手の意見や思いを受け止めること、さらには意見が相違する中で、折り合いをつけながら意見をまとめていくことを繰り返し行うことで、自主性・民主性・集団性を高める機会になっていると考える。次年度からは形が変わっても3学年で取り組む行事が実施できるよう、最大限の努力と工夫を行っていきたい。</p> <p>前年度実施できなかった家族懇談会は1・2回生ともに実施できた。1回生の保護者は入学式に参加できておらず、2回生の保護者は入学前オリエンテーションも入学式にも来校できず、前年の戴帽式に参加された保護者は多少なりとも本校の教育について知る機会にはなったと思うが、直接話をする機会がこれまでなかった。家族懇談会では学校での教育実践や学生の様子を画像等を含め知っていただく機会となった。3回生は国家試験に向かう秋に全員の3者面談を実施し、保護者と共に学生を支援することを共有できる機会となった。</p>	<p>○教育理念、教育目的、教育目標を学生も保護者も分かり易いようにパンフレットでの工夫やYouTubeでの動画配信など学校の特色を発信できている。学校通信「麦の穂」も学生自身の声が掲載されるようになり、学生にとっても身近に感じられるものになっていると思われる。コロナ禍での制約がある中でも工夫がなされている。</p> <p>○ホームページの更新の努力がされたということだが、閲覧回数等は変化してきているのか。(そうした設定は現在していない旨学校より回答) 閲覧回数がわかるようにしてはどうか。</p> <p>○ユーチューブ動画の作成を学生自治会に依頼したとの事だが、学生自治会活動を通じての学生の変化に期待したい。学校の教育の目的は国家試験合格ではなく、患者の立場に立った看護のできる看護師養成であり、泉州看護専門学校の存在する意味などを問うていく必要がある。教育している意味も、どのように学生に伝えていくのかという点も問われている。</p> <p>○教育の柱の一つである学校行事がコロナ禍で、開催の制限を受けているが、工夫をしながらも学院祭など継続して取り組まれていることは貴重である。参加が学校関係者のみであっても、開催に向けて準備し取り組む過程に、教育理念が反映され、学生自身が主体となって学んでいると考える。また、教員にとっても研究指導、援助できる機会でもあり、学生の成長を実感できる大切な取り組みである。継続できるように努力された学校教職員の姿勢が伝わる。</p> <p>○創作曲発表会が中止となったことは残念であるが、ビデオ、Zoomなどの活用はできなかったのかと思う面もある。ぜひ、在学中のどこかの行事で発表できる場を検討してほしい。</p> <p>○保護者との懇談会が開催されたことは、保護者にとっても学校を知ってもらえる機会になり安心されたと思う。開催できたことが良かった。参加できなかった保護者にはその内容をニュースなどで知らせしてほしい。コロナ禍での保護者との懇談は工夫が求められる。対面が困難な場合は、電話相談、Zoomでの面談など臨機応変に対応できるようにすべき。</p>

<p>教育課程経営</p>	<p>本校は、民医連の綱領、法人の医療・看護の理念がもとになり、「無差別平等の医療」「患者の立場に立つ看護」が教育実践の軸になっている。</p> <p>教育理念・教育目的・教育目標に沿って教育課程編成が行われているが、社会状況や社会のニーズは年々変化している。そのため、毎年、前期総括・後期総括を行い、その都度改善に努め、年度末総括では、来年度のカリキュラム内容に向けて検討をしている。その中で、外部講師の変更や講師団会議による意見、学生による授業評価などを参考にカリキュラム内容の変更も行っている。</p> <p>例年3月に実施していた講師団会議を7月に実施することが出来た。講師団会議では、学生の主体性を引き出すための講義での工夫をしていくことの重要性など話し合われた。さらに講師から、設置主体である「民医連」の歴史について理解を深めたいとのご意見をいただき、今後共に「民医連」についても学習していく方向性が確認された。この機に改めて「どんな看護師を育てるか」「自分たちのめざす医療や看護」について教員自身学習をすすめていくことが重要と考える。</p> <p>2022年の第5次カリキュラム改正に向けて、現カリキュラムを見直し、新カリキュラムを作り上げ申請し認可された。今回の改正では、学校のある地域に根ざした教育を学校独自のカリキュラムとして構成すること、その中で「地域」や「在宅」に焦点を当て、学ぶ機会や場所を拡大することも求められている。本校では、1回生から地域・在宅看護論の講義の一環として、共同組織の友の会班会等への参加を予定している。</p> <p>2021年度は拡大臨床指導者会議を秋に開催した。この間の実習状況を臨床と教員で交流し、臨床実習の重要性を再確認する機会となった。今後もコロナ等の影響により学校に集合しての会議は困難な状況も予測されるが、可能な時期や方法を考えながら実施していきたい。また、臨床実習指導者講習会も2022年度から再開する予定である。</p>	<p>○外部講師との懇談会は貴重であり、開催時期がズレたとは言え久々の開催であり、開催に向けての努力が伺われる。</p> <p>○授業評価は様々なツールもあるので、学生がスマホを使って入力できるシステムを検討してみたい。</p> <p>○授業評価を受ける教員としては辛いものもあるが、その評価について、じっくり検討し今後の授業に活かすことが大切。</p> <p>○カリキュラム改正に向けての編成は大変だったと思う。地域、在宅分野は民医連の専門分野であり、法人、関係する施設と協力でき強みであると思う。これからのカリキュラム運営に期待する。</p> <p>○コロナ禍の時代、様々なものを活用して臨床と連携をすることが求められる。指導者との打ち合わせもZoomでする時代であり、映像配信に向けて、教員の負担を軽減して取り組んでもらいたいと思う。(機器に強い教員もいるだろうが、機器のトラブルがあった時は大変。そこに時間をとられることなく、教員が講義や指導者との交流に集中できるように事も考えていってほしい)</p>
<p>教授・学習・評価課程</p>	<p>学生への教育活動について、入学前にオリエンテーションを行った。入学前オリエンテーションでは、学則を含めた学校生活について、学生本人だけでなく保護者にも伝え学業支援をお願いしている。その後は、各学年の家族懇談および個人懇談を行い、必要時は家族と連携し学生への支援体制をとっている。今後も保護者から信頼されるような学校作りが必要である。</p> <p>成績については、毎年4月に前年度の単位取得状況である成績表を学生および保護者に渡している。また、クラス懇談や個人懇談を実施し、学習状況を共有することが出来た。さらに、国家試験に向けての対策や現状なども情報共有し保護者と学校で共に学生を支える基盤づくりに努めている。今年度は出席日数不足で試験受講資格を無くした学生はいなかった。しかし終講時試験・再試験の結果次年度に再履修となった学生が数名いる。再試験に向けては担当が入ったの学習会も行っているが、日常的な学習の強化をクラス集団としても個人学習としても取り組むなど、低学年からの学習支援について考えていきたい。</p> <p>前年に続き、今年度もコロナの影響で臨地実習を縮小せざるを得なかった、特に3回生の領域実習は、これまで3週間を基本としていたが、昨年より学内実習を含め3週間となった。どの領域も1週間は全員学内実習とし、残りの2週間は臨地の状況により臨地実習が実施できた学生とすべてが学内実習になった学生も生じた。精神看護学実習はすべて学内実習となり、模擬患者を用いての紙上の学習となったが、学生同士で患者役を担当してのロールプレイングを活用し、イメージが不十分なところは教員が助言しての学習となった。精神看護を補足する目的で精神科看護師より補講していただき、患者像や精神看護の実際を学ぶ機会とした。</p> <p>今年度も看護師国家試験対策は、臨地実習が少なくなったことも影響して、学生のイメージを深めるような学習(補講等)を行った。しかし、コロナ感染の拡大により1月中旬以降、登校せず自宅学習となった。昨年度は2週間だったが今年度は約1か月に及ぶ個人学習となってしまったが、毎日オンラインで学校とつなぎ、朝礼や終礼、補講も実施し、その他の時間も学生それぞれが他学生とオンラインで繋がって学習を深めた様である。これまで大事にしてきた集団での学習のなかで、学生それぞれが主体的に学習に取り組めるようになってきている。</p> <p>看護師国家試験対策は、現状では3回生になってから本格的な指導となっている。1回生時から、主体的に学習に取り組めるような働きかけについて検討が必要である。</p>	<p>○コロナ禍での感染対策と、その中での教育をすすめていく苦労と、学生への対応についてはよく伝わってきている。昨年はリモート授業でクラスが2分割されるなど、学生の反応も見えない中、本当に授業しにくかった。</p> <p>○コロナ禍の下、臨地実習が困難な状況で、学内実習でも様々な工夫がされており、そうした努力があって乗り越えていることがよく理解できる。</p> <p>○国家試験対策でもコロナの感染拡大の時期で大変だったと思う。オンラインでつながることで学生も安心できたと思う。</p> <p>○学習成果は、学生個人の問題だけではないので、教育を保障する上では学校側の努力もいるのではないかと。「補講」も教員に負担にならないよう、実施する時間帯も考え、土曜日、日曜日に時間をゆっくりにかけて「補講」し、出勤に対しては代休などで労働時間も考慮するようにしてはどうか。</p> <p>○臨地実習について、1年生の早いうちから基礎実習という形で直接、病院に行き、環境整備が課題となっているが、患者さんとのコミュニケーションをとることができることは素晴らしい。是非、患者さんとのコミュニケーションをとることも基礎実習の課題として設定してほしいと思う。</p>

<p>経営・管理課程</p>	<p>本校の管理運営にあたっては、組織図のもと、管理委員会、学校運営委員会を設置し、それぞれの任務および審議決定事項も規定されている。</p> <p>管理委員会は1か月に2回、学校運営委員会は2か月に1回開催している。教務会議は1か月に2回定例会議を実施、さらに臨時の管理会議や教務会議を行い、その都度の課題や学生対応に努めている。各学年会議には担任、副担任に教務主任が入り、指導・相談にあっている。また、臨地実習担当として実習調整者を配置し、実習にかかる全般を担っている。</p> <p>入学後のガイダンスで奨学金制度について説明を行い、日本学生支援機構の申し込み、事務手続きの相談・援助を行っている。関連病院の奨学金希望者の相談を受けたり、経済的に困難な学生からの相談もあった。2020年度実施された「国の制度としてコロナ禍における学生への特別支援金」が今年度は実施しようとしていないため、全日本医連的に文科省・厚労省交渉を繰り返し行う中で、年度末近くになって学生への特別支援金が準備された。ただ、この制度を利用するには要件が厳しく、対象とならない学生が多く発生することから、制度の継続ともっと多くの学生が利用できる制度となる様要請していくことが求められる。</p> <p>教育効果を高めるための機材については、コロナ禍のリモート講義や動画での学習機会が増えたため、WEB環境整備に努めた。ナースチャンネルの継続契約、DVD購入、パソコン本体および周辺機器の購入、幼児モデル人形(マロンちゃん)の購入、その他必要とされる教材の工夫を行ってきた。</p> <p>ICT教育推進のため、補助金も一部受け、Wi-Fi環境も整えた。今後はさらに長期的に学習環境を整えるためのモデルなどの購入も経年的に準備していく必要がある。</p> <p>コロナ禍における感染対策では、前年同様体調管理と手洗いの励行、マスクの着用、特に昼食時の黙食を指導していった。前回アクリル板の使用等の意見もいただいていたが、アクリル板を使うことで気流が滞る等、様々な見解がある中、現状としては使用せず、各自の感染対策を続けている。感染対策を経営面で見ると、手指消毒用のアルコール(学校施設内用および実習用)、学内拭き取り用のアルコールやペーパータオル、学内演習や実習用のアイシールドやフェイスシールドなど、コロナ前には不要であった感染対策用の支出が多くなっている。</p>	<p>○コロナ禍の下でも学校が様々な工夫を行い、努力されていることがよくわかる。</p> <p>○感染予防の予算も大変だと思うが、ここまで学内でのクラスターを発生させることなく来ていることは素晴らしい。今後とも何とか予算を捻出して、引き続き感染対策に努力してほしいと思う。</p> <p>○大変な状況だとは思いますが、引き続き節約に努力していただき、学校経営を守る観点も大切にしてほしいと思う。</p>
<p>入学</p>	<p>進路相談会は、前年よりは多く予定されたが、直前に中止となった会場もいくつかあった。最終的には13会場(高校含む)の進路相談会に参加できた。</p> <p>学校独自や病院の看護学生担当者や共同組織の方とともに高校訪問等を行うことを検討していたが、コロナ禍の影響もあり実施できなかった。</p> <p>大阪府下の全高校に学校案内パンフレットおよび募集要項の郵送は例年同様実施できた。独自で行う予定の高校訪問は実施できなかったが、昨年度以前に実施した高校訪問等でのつながりから、当校の校風を理解し、受験を勧められる先生方がおり、オープンキャンパスの参加および受験につながっている。今後も可能な限り、高校訪問を実施していくことで受験者の獲得につなげたいと考える。</p> <p>学校の広報活動としては、ホームページへの新着ニュースアップに努めた。また、大阪府看護学校協議会がYouTubeチャンネルを開設し、2021年5月に学校紹介動画の配信が始まった。本校の動画は卒業生が作成してくれており、内容も好評である。</p> <p>オープンキャンパスは、1回の人数を30人定員とし午前・午後の2部制で5日間で実施した。今回取り入れた「お盆」の時期のオープンキャンパスは参加者が少なかった。全体の参加者数は昨年とほぼ同様136名であった。(昨年参加数138人)オープンキャンパス以外での希望者の学校見学は随時受け入れた。</p> <p>進路相談会やオープンキャンパス参加者が受験につながっているが、今年度の受験者数は前年度より40名減少した。3月中旬に入学辞退者も発生し2022年度入学生は定員割れとなった。受験生確保について、2022年度からさらに強化することと、受験日程も変更する(早める)予定。</p> <p>入学選考の可否は入学選考基準により適正に審査されている。</p>	<p>○オープンキャンパス、配信、学校訪問など様々な工夫を行い、学生確保に努力されているが、受験生の減少は残念でる。受験生の減少は少子化時代で一定仕方のない部分もあるが、大学ではオープンキャンパスは4月から毎月9月まで行われている。大変だが、開催回数など増やしてみてもどうか。</p> <p>○大学と掛け持ち受験をする受験生は、大学が遅い時期まで入試を実施する関係で大学に合格するとどうしても揺れてしまうのが現状。推薦入試も検討すべきではないか。</p> <p>○泉州は教員、講師も含めて学生との距離が本当に「近い」と思う。それは学生に対してアピールポイントの一つなので、積極的にアピールしていくべき。</p> <p>○学校生活の様子を配信することは、泉州看護専門学校をより身近に感じてくれるのではないかと考える。</p> <p>○学校通信「麦の穂」をもっと活用できないだろうか。民医連の院所の待合室にも置いてもらえるよう手配をしてはどうか。</p>

卒業・就職・進学	<p>設置主体法人をはじめ関連施設との奨学生制度があり、今年度の民医連施設への就職率は7割であった。関連施設外も含め就職率は100%である。</p> <p>2021年度の本校の看護師国家試験合格率は94.7%であった。今後も学生の主体性を育みながら、教員一同、学生をサポートしていく。</p>	<p>○民医連施設への就職が100%であってほしいというのが願い。引き続き、100%に向けて頑張してほしい。</p>
地域社会/国際交流	<p>今年度も11月の学院祭では、コロナ禍のため外来者に参加いただくことが出来なかった。地域自治会主催の行事などにも参加できなかった。学生独自の取り組みとして、学校周辺の清掃活動を実施した。</p> <p>災害時の対策としては、毎年防災訓練において避難訓練を行っている。2021年度も前年同様学生と教職員の避難訓練となった。</p> <p>国際看護として、例年来て頂いていた、海外の医療について訪問経験のある医師の講義が今回も依頼できない状況となり、ナーシングチャンネルという動画による学習を行い、海外の医療・看護について学んだことと、映画シッコを視聴した。以前にこの映画を低学年で見た時の学生の学びよりも、3回生での視聴は、各国の医療状況や医療保険制度について興味関心の度合いが高まり、3回生での視聴の意義は大きいと感じた。</p> <p>また、コロナ感染症だけでなく世界の感染性疾患についても講義で深めたことが国家試験にも出題されており、日本のことだけでなく、視野を広げて世界にも目を向けることの重要性を再確認した。</p>	<p>○学校周辺の清掃活動など日常的に継続することもいい活動だと思う。その他、堺市や地域の歴史を学ぶ機会をとらえて、地域の方々と交流できればと思う。</p> <p>○国際交流は課題だと思うが、大阪民医連は韓国の民主的な医療機関との交流、医療生活協同組合はネパールとの交流も以前はあったように思う。他国の医療・看護の現状を学び、視野を広げることにつなげてほしい。</p> <p>○今の国際情勢の中では、紛争も多く、国境なき医師団の活動など学ぶ機会があればと思う。</p> <p>○世界の中で発展途上国の医療制度に言及した文献・資料が少ないように思う。途上国の医療制度等について知ってもらえるようにできないか。乳幼児死亡率をみるだけでも違うのではないかな。</p>
研究	<p>2021年度も専門分野の研修会や学会が中止となったことが多く、学会や研修の参加数は減少したが、WEBで企画されたセミナーや研修会、看護協会や看護学校協議会の講演会、民医連主催の研修会等、延べ40名が参加することができた。また、7名の教員が研究発表を行った。</p> <p>2020年から参加していた教務主任の日本看護学校協議会の教務主任養成講習会は、2年目の研修に参加し無事修了した。</p>	<p>○自己研鑽としての取り組みを継続してほしい。</p> <p>○計画的な教員養成、研修など取り組むことは、教員育成にもつながる。継続してほしい。</p>